

芦屋町立山鹿小学校がある芦屋町は、遠賀川が響灘にそそぐ河口に位置し、自然環境に恵まれています。この自然環境を教育活動に積極的に取り入れており、平成19年度に、教育機関や保護者、地域の方の協力で「ビオトープ」を造成しています。

「生き物ランド」と名付けられたビオトープは、しばらく荒れた状態にありましたが、この度、再生計画が持ち上がり、それを核とする環境教育の依頼がありました。

観察会当日は心配された雨も降らず、多少のスケジュール変更はあったものの、校庭でのビオトープと樹木の観察、後半は多目的教室での森林講話がスタートです。

土曜の愛校活動後の6年生51名を対象に、先ずはもりもり体操でアイスブレイク。全員ノリノリで身体を動かす様子に、教員やスタッフから笑いがおこりました。身体も心もほぐれたところで、ビオトープに向かう2班、8種類の樹木観察に向かう4班で、順次入れ替わりです。

ビオトープ観察では、クイズ形式で解説する班や、紙芝居型のパネルを使う班などがありました。皆、真剣に耳をかたむけて、質問にもよく反応していました。食物連鎖や生物多様性、地球温暖化による環境の変化などにも理解を示していました。樹木観察は、雌雄異株やクスノキの特徴などを解説しました。

観察会が佳境にさしかかる頃、まさかの休憩タイム・・・学校側から15分間の休み時間を求められて、どの班も数種類の樹木観察を残したまま前半終了となりました。



後半は、森林の働き、森林の形態（天然林と人工林）、林業、木の利用に至るまでの講話を通して、環境への影響について学習しました。少し難しいのではと思いましたが、その後の質問タイムでは①芦屋町で住宅開発が行われているが森林面積は変わるのか②遠賀川の上流は人工林か天然林か③割りばしを使うことは自然破壊につながるのか、など高等な(?)質問が相次ぎ、理解力のあることに驚きました。

また、振り返りでは①樹にはいろいろな名前があつて、匂いとかも違うことがわかり勉強になった②ビオトープのことがよくわかって良かった、などの意見を聞くことができました。

場所を移してのスタッフの振り返りでは、ビオトープ解説はなかなか難しく逆にこちらが勉強になった、と本音もポロリ。そうするうちに雨がポツポツと降り始めて、「我々の行いがいいからね」と、自画自賛しながらの解散となりました。

